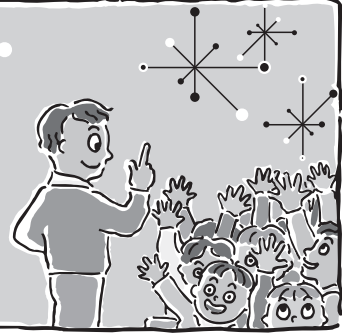


子どものことばが 教えてくれたこと

第4回 「まねっこ詩」に盛られる個性

岩 辺 泰 吏



これは のみの ぴこ

これは のみの ぴこの
すんでいる ねこの ごえもん
……

谷川俊太郎さんは、この『のみの ぴこ』のよ
うに増えていく詩の表現形式を「つまかさねうた」
〔つまあげうた〕と呼んでいる。「つまかさねう
た」は、マザー・グースの「これはジャックのた
てたいえ (This is the house that Jack built)」
の形式を取り入れたものである。谷川さんご自身
の翻訳による『マザー・グース』シリーズに含ま
れている。だからと言って、『のみの ぴこ』は、
谷川さんのオリジナルな作品とは言えないという
ことにはならない。「つまかさねうた」は豊かな
可能性をもつ表現方法であって、いろいろな作家
が試みている。

がまくんとかえるくんの物語で、子どもにもお
なじみのアーノルド・ローベルには『わたしの庭
のバラの花』(松井るり子訳、セーラー出版)が
ある。

谷川さんが翻訳した絵本『パパがやいたアップ
ルパイ』(ローレン・トンプソン文、ジョナサン・
ブーン絵、ほるぷ出版)は、パパと二人で暮らす
女の子の語りで展開する。女の子はパパが大好き

であり、パパの作ったアップルパイこそ世界一だ
と自慢に思っているのである。

「これはパパがやいたあまくてあつあつアップル
パイです」

「これはあかくておいしいりんごです」

りんごはパパがやいたあまくてあつあつアップ
ルパイになりました」

「これはねじれてたくましいりんごのきです」

きはあかくておいしいりんごをみのらせて

りんごはパパがやいたあまくてあつあつアップ
ルパイになりました」

そして、深く根ざした「ねっこ」、根っこをう
るおす「あめ」、雨を降らせた「くも」、雲を運ん
できた「そら」、美しい空を照らす「おひさま」、
おひさまをめぐる「ちきゅう」……こうして、
パパの焼いたあまくてあつあつの「わたしのパイ、
……そしてみんなのパイ」ができるのです。とい
うわけだ。

「ひとつのアップルパイが世界につながる、つ
みあげうたの絵本です。」と、カバーの折り返し
に書いてあるから、これも同じ手法の物語である。

三年生で、「つまかさねうた」の手法を使って、
家族紹介の詩を書くことを試みた。頁一郎君の「こ
れは、うちの家族」を、はじめと終わりだけ紹介
する。

いわなべ たいじ 読書のアニメーション研究会代表。
明治学院大学教授。前葛飾区立飯塚小学校教諭。

アニメーションの思想と方法を応用して、国語および学習全体の改革へのチャレンジを続けている。

これは うちの家族

これは うちの家族の
声の大きな 弟のかずひろ

……(中略)……

これは うちの家族の

声の大きな 弟のかずひろの

歌の好きな 妹のユキの

好きな 犬のコロを

もらってきた お姉ちゃんの

弟の ぼくの

好きな ファミコンを

買ってくれた お父さんの

およめさんの お母さん

貢一郎君に誘い出されて、一朗君は「これはスキーをする家族」を発表した。次々と作品が生み出され、家族紹介が展開されていき、学級通信紙上での交流が行われた。

表現形式は「本歌取り」であるが、そこに盛り込まれているものはオリジナルなテーマであり、内容なのである。こういう方法を、私は「まねっこ詩」と呼んで、阪田寛夫「おとなマーチ」、谷川「いっぱい」「つままない」等を借りて行ってきた。い

わば俳句や短歌を含め、定型詩の方法といえよう。これに対する批判は、当時は激しかったし、今でもある。私は多様な表現手法を持ち込むことが大事だと考えている。

このとき私も作ってみた。二学期が始まった二年生の学級通信である。

二学期さん こんにちは。

二学期さん こんにちは、

プールは いくんち できるかな。

……(中略)……

二学期さん こんにちは、

プールは いくんち できるかな

プールが おわれば うんどうかい

うんどうかいでは ダンスに かけっこ

ブロックゆうしょう がんばりましょう

がんばりましょうは かんじに かけざん

かけざん九々は こもりうた

こもりうたなら おとうとに きかしよ

おとうとと いっしょじゃ まけられない

まけても かっても みんなと いっしょ

二学期さん こんにちは！